

■第10回精神障害者自立支援活動賞（リリー賞）受賞者 【当事者部門】

当事者による障害者雇用を実践 餃子専門店黒兵衛・(株)いづみカンパニー代表取締役

執行 泉(しぎょう いづみ)さん 49歳 【福岡県福岡市】

発達障害と診断されたのは2010年、45歳のとき。長年、自身の障害に気づかぬまま2003年、経営する餃子専門店に障害者雇用実習の受け入れを開始。発達障害と診断された後は、自らの障害を特性として活かした経営戦略をとり、2011年より障害者雇用のノウハウを他企業に伝授する「ノウハウ移転事業」を始動。独自の発想で障害者雇用を一事業として成立させている点にインパクトがあり、地域の人気店として社会的評価を得ている点や、その取り組みを他地域にも広げようとしている発展性が高く評価された。

●22歳の決意「障害者雇用」

自閉症の入所施設に勤めていた22歳のとき、入所者が社会で働く場を確保しようと考え、大企業への飛び込み訪問を敢行。そこで「障害者が社会で働けるわけがない」と言われたことに反論できず、障害者も社会で働けることをいつか自分で実証しようと決意する。縁あって開店した餃子専門店に、2003年より障害者雇用実習の受け入れを開始。障害者就労支援センターなど周囲の協力や工夫により課題をひとつずつ克服し、統合失調症、発達障害、知的障害をもつ人々の雇用を実現。対面販売を通じて、10年にわたり障害者雇用を地域の人々に説明しながら、障害への理解を着実に広げている。



執行 泉さん

●45歳でわかった自らの「発達障害」

幼少時よりひとりであることを好み、中学進学後は体調不良が頻発して不登校に。12歳のとき、病院で検査を受けるも不調の原因がわからず、45歳のとき、広汎性発達障害(アスペルガー症候群)とADHD(注意欠如・多動性障害)を併せ持ち、気分障害もあると診断されるまで、人間関係のトラブルや不注意によるけがなどで、長年生きにくさを感じていた。

自らの障害がわかり「ある意味安堵した」と語る執行さん。一方で、当事者の自分が障害者雇用を今後も継続できるのかと悩む。「従業員が障害を理解しようとしてくれたことが、次に進む大きな力になった。発達障害を研究する恩師から『当事者のあなたにしかできない障害者雇用があるのでは』との言葉をいただいたことで、復活できた」という。



「“混ぜる”“包む”など単純明快な作業は障害者の自信につながる」と執行さん

●障害の特性を活かす — 障害者の個性と仕事のマッチング

『感覚過敏』は障害でも『五感の鋭さ』は餃子店には強み」と語る通り、障害を特性として仕事に活かすことが障害者雇用の基本だという。「ノウハウ移転事業」は、障害のために複数の店舗展開が困難な執行さんが、「誰かに代わりに経営してもらえばいい」との逆転の発想で生み出したものだ。

●障害とうまく付き合いながら

月2回の通院と服薬を守り、臨床心理士への相談や五感を休める工夫などで障害をコントロールしながら、地域に根差した障害者雇用が全国に広がることを目指している。



現在は発達障害2名、知的障害2名を含む計9名が働いている